



大阪府インテリア設計士協会

〒541-0059 大阪市中央区博効町1-6-14
TEL. 06-6262-1488 FAX. 06-6262-1553URL <http://jp-interior.or.jp/ois>
blog <http://oisblog.exblog.jp>
E-mail ois@jp-interior.or.jp

編集スタッフ

広報部長：田原
 広報部：石渡・廣畠・河原
 仲田・朝日・園田
 高尾・加茂
 事務局：奥田・岡崎

証書伝達式 & 検定報告 No.84



伝達式に思うこと

第50回

インテリア設計士資格検定報告

9月25日、記念すべき第50回インテリア設計士資格検定試験に合格し、登録を終えて、晴れて「インテリア設計士」の資格取得者となった人たちに対する証書伝達式が行われ、いち理事として参加した。場所は昨年と同じ大阪南港・ATC内の大阪デザイン振興プラザ“交流サロン”である。

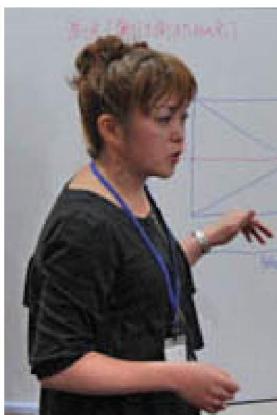
暑かった夏から急に涼しくなったことも手伝い、全員スーツ姿での参加である。まず最初に、宮後会長から証書の授与が行われ、合格の喜びを再実感するような緊張感が漂っていた。

次に、DVDによるOISの紹介が行われ、この日のためにリメイクされた新しいDVD映像に、私も改めてOISの魅力に惹かれる思いがした。引き続き、廣畠理事による「ミニ・パース講座」が実施された。丁寧な説明に熱心に耳を傾け、指導に従って手を動かしパースを描く姿も、教える廣畠理事も真剣そのものであった。

講座終了後は簡単なオードブルと飲み物を囲んでの交流会となり、新人と役員の間に交わされる和やかな会話は、普段とは違う趣で、役に立ったことと思われる。

試験の日の苦しみ、今日の嬉しさ、感動を忘れず、今後もドシドシこのような催しに参加し、自分磨きの場にしていただこうことを希望する。

新・インテリア設計士の皆さん、本当にありがとうございました。
(記・朝日勝彦)



講師の廣畠理事



熱心にパースを描く合格者

| 合 格 者 リ ス ト | | 五十音順 | |
|-------------|----|-------|--------|
| 氏 名 | 学校 | 氏 名 | 学校 |
| ◆ 1 級 | | 田 中 慕 | 恩 OG |
| 今 井 俊 夫 | SH | 玉 井 愛 | OG |
| ◆ 2 級 | | 内 藤 友 | 貴 CU |
| 新 井 祐 佳 里 | CU | 中 井 裕 | 美 SD |
| 石 川 美 緒 | OS | 仲 谷 和 | 晃 OG |
| 市 原 美 希 | HK | 中 塚 紗 | 代 SD |
| 今 井 和 子 | SH | 仲 原 佑 | 実 HA |
| 馬 場 早 希 | SI | 西 口 香 | 里 OS |
| 尾 崎 文 香 | OS | 朴 成 | 和 TA |
| 垣 内 聖 華 | TA | 濱 岡 美 | 沙 OS |
| 亀 岡 真 利 | OS | 春 野 久 | 美 子 HA |
| 河 合 悠 香 | OS | 樋 口 | 愛 SH |
| 北 早 苗 | OS | 木 ウ ア | バ イ TA |
| 桑 原 由 花 | OS | 松 笠 あ | ず さ SI |
| 小 林 み く | OS | 松 本 恵 | 理 子 OS |
| 佐 々 木 綾 | TA | 宮 崎 亜 | 衣 子 OS |
| 佐 麻 晶 子 | SD | 村 木 あ | ゆ み CU |
| 島 田 亞 利 沙 | CU | 田 純 晴 | 香 OS |
| 正 戒 寺 早 苗 | OG | 柳 生 | 香 OS |
| 末 松 愛 加 | OG | 楊 岳 | 岱 TA |
| 住 吉 圭 | OS | 鷺 岳 | 希 CU |
| 竹 山 雅 子 | HA | 渡 部 夏 | 嵩 洋 TA |
| 田 中 和 成 | HA | 邊 裕 | 希 HA |

<凡 例>

OG = 大阪芸術大学短期大学部
 SI = 四天王寺大学短期大学部
 SH = 社会人
 HA = 羽衣国際大学
 OS = 大阪樟蔭女子大学
 TA = 宝塚大学・大学院
 HK = 塚田工庫工業高等学校
 CU = 中央工学校OSAKA
 SD = スペースデザインカレッジ

—第1回—

いっぽい ASO-BOZE

—OIS—

生駒山頂で

生駒山

ハイキング

近畿地方もついに梅雨入りした6月20日、「いっぽいASO-BOZE」の第1回企画として、生駒山ハイキングが行われ参加しました。前日は突然的な雨が降りましたが、当日は、約束の降水確率50%未満で、なんとか持ちこたえてくれました。

生駒山に登ったのは、小学生時代のボーカル以来です。

当時は夜間ハイキングと称し、道中のお地蔵さんを数えながら山頂を目指しました。山頂で大阪平野の夜景を一望しながらカッパラーメンを啜った思い出が蘇りました。

参加者10人が揃いよいよハイキング、スタートです。山頂まで約3kmの道標を確認、すぐ到着するだろうと思いましたが、道はどんどん急勾配になり、額から汗が滲るように流れました。狭いハイキング道ですれ違う人たちとあいさつを交わし、人間関係が希薄になっている昨今、ほんわか、暖かいものを感じました。

途中ところどころで休憩を取りながら約2時間半かかって山頂に到着、大いなる達成感を感じました。都心から少し離れ、大自然の雄大さを目の当たりにし、普段悩んでることがいかにちっぽけなことかと考えさせられました。自然という異空間に足を踏み入れることにより、気分をリフレッシュすることができた一日でした。

(記・西脇 利彦)



【青年部企画第6回】

Designer's Bar EX

OIS

8月7日、夕涼みに程遠い暑さの中、夏の集い「第6回デザイナーズバー」は、街へ飛び出して、お洒落なお店「DEEP CUP」で開かれました。汗をかきながら辿りついた店内は、とても素敵な空間でした。こちらはお馴染みのお店ですが、何度もイイです☆

美味しいお料理とお酒&ざくばらんなお喋りであつという間に時間が経ちます。ほろ酔いで【ケータイ早打ちゲーム】で盛り上がったあと、気づけばお開きの時間に・・・。

まだまだ話したりない&飲み足りない顔が店の外に溢れ、ワイワイと立ち話をしています。で、機転をきかせたメンバー矢野友佳子さんのお勧めのバーに、そのままなだれ込みました。

歩いて数分の店は、オープンテラスのあるお洒落なバー。

☆OISデザイナーズバー、6回目にして文字どおり、街に飛び出していました。

夜更けの松屋町筋を眺めながら思い思いの場所に身体を預け、



ワイングラス片手に、気ままなトーク！心地よい夜風に身を任せていたら、またもやあつという間に時間が経ちます。名残を惜しんだ後は、三々五々、夜の街に溶け込んでいくみんなの姿が見えました。

夏の夜ならではの楽しい宴でした☆

(記・石渡 由華)

**久しぶりの上海**

宮後 浩

前回上海を訪れたのはもう7、8年も前になるだろうか、上海に駐在している甥が、「今、上海はすごい建築ラッシュですから、一度遊びに来てください」といわれて行き、行ったついでにインテリア業界の人を紹介してもらい、話を聞いたりして以来のことです。

今回は僕のクライアントが上海に支店を出すということになり、手始めに見本市会場に出展するブースディスプレイの基本設計を行いました。施工は現地のデザイン事務所が行うため、施工図のチェックを行い、オープン当日に現地訪問しましたが、ビルがいやというほど建っていた以外は、上海の町の雰囲気そのものに大きな差は感じなかったものの、人々の活気や技術レベルの向上に驚きました。施工図ひとつを見ても、たかが展示会にしては、レベルの高い施工図を短時間に仕上げ、しかも分かりやすいCGまで添付していました。現場を確認しても、短時間で施工された割には、レベルも高く、細部の收まりもよく考えられて作られています。最近多く見られる日本の無気力な若者を見慣れているだけに、危機感さえ覚えます。

人の夢に俺ができること

園田 寛明



人には夢がある。
人それぞれだろうと思う。
有名人になりたい。
医者になりたい。
野球選手になりたい。
たくさんの夢がある。

年齢を重なれば夢はかわっていく。
現実を知り。それでも喪わない夢は大事。
またそれは目標へとかわっていく。

そういう自分も今なお増えている。
わがままだらうけど、夢をもとめている。
ピーターパンじゃないけど、そんな夢をカタチにしたい。

そんなある人の夢のお話。
ある人の夢はカフェ(CAFE)をもつことです。
1人じゃなく複数の人数で。
カフェだけど、夜にはステージがあって演劇や歌を披露する場所。
壁にはアートギャラリーもでき、もちろん食べ物もメインでやりたいと。
多くの人が集まり仲間がおれる場所。
そういうのをテーマにカフェをしたいって。

その夢に自分ができることはカタチにしてあげること。
自分がカフェを運営するわけでもないし、料理を作るわけでもない。
ラフに図面をかいてもらった。
「ここにはこんなので～テーマはこんなので～」「素材はこんなので～」とか。
たくさんのこと話を合った。
この図面できたのも何度のことだろか。
話し合ってボツになれば次のものへなど。
俺は建築の図面を引けるほど器用じゃないし、建築を知ってるわけじゃない。
でも、その人が求めるものを作ってあげたい。
実際に形にするときは建築士やインテリア設計士とかいはるのだろうけど。
今は、その人が想像する夢を作ってあげたかった。



全部で3パターンある。
そのパターンを相手が希望したからである。

俺にできることを考えた時、これぐらいしかできないと思った。
まずは伝えたい、絵として。

夢にはすごい道のりがあると思う。
叶えるまでには、たくさんのことしなければならないのかもしれない。
辛いことも、悲しいことも、でも人は、その先にある「夢」のために頑張ってるの
だと思う。自分もモチロン頑張っている。
だからこそ、頑張ってほしいと願う。そんな人たちを応援したいから。

この絵を見てもらって、その人が少しでもやる気になって、自分の夢忘れずに
頑張ってくれたら～って思う。
応援してるで～っていうことを伝えたい。

途中で夢がかわって、今のは～っていうのもいいと思う。
でも、「今・リアル」な時こそ、俺は応援したい。

だから今自分にできることはこれをすること、伝えること。

そんな夢のお話。
他人だから～とかじゃなく、自分にできることをしてあげたい、ただそれだけです。



技術レベルが低いとか、すぐにコピーをするとか、確かに見受けられる節もありますが、コピー文化といえば、過去の日本もそうであり、僕の子供のころにも、「パーカー万年筆」のコピーを屋台で買った覚えがあります。それが、高度成長に伴い品質も向上、「メイドインジャパン」のブランドが出来てきたのではないでしょうか。すでに日本のあらゆる技術をマスターしているようにも思えました。あの活力、行動力、いずれ日本企業が中国の傘下に、とも思えるほどです。



今回、上海に行つて感じるのは、5年後、日本はすでに中國の標的ではなく、無視をされる国になっているようにさえ思えます。そうならないだけの活力と英知をもっと身につけないといけないのでないでしょうか。



記事募集のお知らせ

あなたが最近行かれた「観光地」の情報を教えてください。
お寄せいただきたい内容は、次のとおりです。

- 文字数=500字程度
- 写真2～3枚
- 国内・外を問いません。
- 原稿は郵送・メール・FAXで事務局までお送りください。
(FAXの場合、写真は郵送してください)
- ◆掲載させていただきました方には記念品を贈呈いたします。

淡路島で有名なものは?…と質問されて「イザナギ・イザナミの国生み神話、うずしお、玉ねぎ、温泉…それに、瓦!」と。“瓦”を思いついたひとは“ナカナカやるな”です。

三州(愛知)、石州(島根)と並び、淡路島は瓦の三大産地で、特にいぶし瓦にいたっては、国内シェアの約50%を占めているということを知っている人は少ないようです。かくいう私も最近知ったのですが…。400年の歴史があり、瓦の形状は数千種類もあるそうです。

一般的にいう陶器瓦は仕上に釉薬や塗料を使いますが、いぶし瓦は焼成化させるのが特徴で、約1,000°Cで焼成した後、密閉状態のまゝ生ガスを使い炭素膜を吸着させるのですが、この時の火加減と圧力は職人の経験とカンが必要なのだそうです。

焼きあがった時は真っ黒で素人は驚きます。エアーと刷毛で丁寧にススを払うと滑らかな銀色の光沢が現れ、うっとります。素手で触ると手垢がついてしまうので神経もつかいますが、そういう繊細なところも“自然から頂いた貴重な恵”として愛情を感じますし、鬼瓦(棟端の飾瓦)の造型は年月に洗練され鬼



面などを手作業でつくる職人は“鬼師”と呼ばれていて、とてもカッコイイです。メーカーに大量生産型が多い三州に対して、淡路瓦はどちらかというと家内工業的で、“手技”に近い、というのが私の感想です。実情としては、戦後の大量需要の際に品質の劣化が見られ評判を落としてしまったり、阪神大震災の時には間違った情報で市場に大打撃を受けたりと不幸な時代があつたようですが、それらをくぐり抜け、今は“頑張る産地”だなあ、と感じています。

窯入れの時間や圧力を研究して強度や窯変を開発している企業もありますし、伝統的な屋根や敷瓦・漆喰や土壁と組み合わせた壁材に留まらず、工夫をこらしたモダンな新商品、環境配慮のエコ商品の開発には、瓦産業自体が一所懸命取り組んでいるので、より以上に、そう感じるかもしれません。

建築材料として新たな取り組み以外にも、インテリアやエクステリア商品、景観づくり、アートにと、瓦の使われ方も多様化され、個性的な空間を作るための優秀なマテリアルとして見直されています。

いぶし瓦…もっとこんな風にしたら…と創造力をかきたてられる素敵なお素材だと思います。



最近のタワーマンションに想う

田原 妙子

ここ数年、あちこちで超高層マンションが増え、そこそこの広い土地があれば、40~50階くらいのタワーマンションが建ち、天空の邸宅となります。眺望とホテルライクな空間を求める人や、賃貸やセカンドとしての購入する人も多いのですが、最近はファミリー・タイプも増えて垂直型団地の感もあります。

仕事でタワーマンションに関わることも多く、以前から気になっていたことが、最近は頻繁に起こるようになりました。それは、高額のわりに普通タイプより、家具の搬入が難しい、つまりサイズの大きな高級家具が入りにくいということです。

輸入ブランドやデザイナー物のソファやボード類はサイズの大きいものが多く、戸建住宅なら庭からの搬入はできても、マンションの場合は必ず玄関から廊下を通ってLDや洋室へ運ぶので、玄関は入れても、廊下で廻せなくて諦めることがしばしば…。造作家具でも長尺板は無理だったり、あらかじめ箱を作つて現場組立てする方法ができないこともあります。なのでいつのまにか壁面収納は、無難なシステム家具を使うことが多くなってきました。

親子ドアの最上階クラスは別として、上層のハイ・グレード・

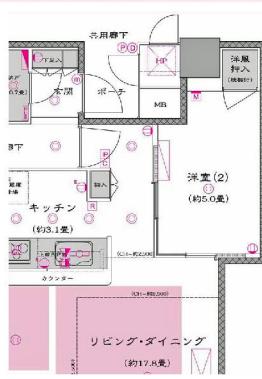
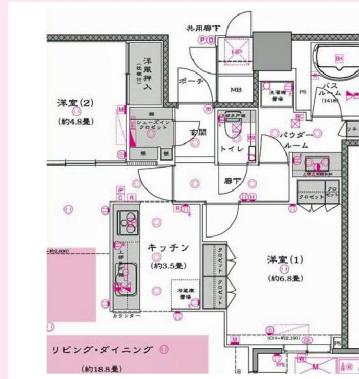


フロアであっても、ゆったりした高級家具が入れられない。単身者サイズの小ぶりな室であっても同じことが起ります。

なぜそんなことが起こるのか?それは太い構造柱があちこちにあり、内廊下で窓がないのにできるだけ居室空間をとりたいがために、玄関・廊下が狭く曲がりくねってしまうからです。

一昔前は、動線、視線、家具の搬入も考慮して設計されていたのか、プランもそれほど悩みませんでした。が、最近は建物乱立とともに、収益につながる居室広さ優先で、普通のマンションよりも住まい勝手の悪いものが増えています。加えて図面に表われていなかった取り合いもできたりして、建物完成前の提案はますます難しくなってきました。美しい家具で作る空間を夢見て購入者にとっては妥協と諦めも。余裕のある人は設計変更やリフォームで費用を掛けますが、そこまで具体的でない人はいざインテリア・プランに入つてから悩むことになります。お蔭で入れたかった高級家具を諦めて、それなりの物で対応するしかない。これは家具業界にしても面白くない傾向だと思います。

この時勢で、ゼネコンの設計者も割り切つて効率のよい売れる設計をしなければいけないのでしょうが、もう少しだけ心の知恵を絞つていただけたら美しい空間へつながり、より多く施主の満足を得る結果につながるはずと、つくづく感じることの多いこの頃でした。



今後の予定…詳細は順次お知らせします。積極的にご参加ください。

- 2010.11.13(土) 「もりぐち歴史館(旧中西家住宅)」見学会
- 2010.11.25(木)~27(土) 「事遊展」 於・コラムデザインセンター
- 2010.11.27(土) 「手作りサロン~篆刻を楽しむ」 於・同上
- 2010.12.10(金) 「第7回 Designer's Bar」+「忘年会」 於・同上

ご希望・お問い合わせはメールでお気軽に→

